



民藝 無作為の美

— 深澤直人が心を打たれたものたち

Mingei, Unintentional Beauty - what Naoto Fukasawa is touched

2025年 3月30日(日) - 6月1日(日)

日本民藝館



左上より時計回りに 弁当箱 朝鮮半島 1930年代 横26.9cm / 鈍鞆 飛騨または石川 1940年頃 縦23.0cm / 火鉢 出雲大津(島根県) 1940年代 高21.0cm / 纏字文印伝革羽織 鹿革、型燻染 江戸時代 19世紀 丈130.0cm / 薬沓 山形県 1940年頃 横26.7cm / 白薩摩角酒器 苗代川 江戸時代 19世紀 横12.0cm

自然の中から生まれ出た作らなき民藝の美に、なぜ人は心を打たれるのでしょうか。プロダクトデザイナーで当館館長である深澤直人が、館蔵コレクションの中から自身が感動し刺激を受けた生活道具を選び、「温もり」や「親しさ」「愛らしさ」といった民藝美の魅力に光を当てます。生活美の結晶である民藝の存在が、未来に向けた「ものづくり」や「生きる方向」を確かめるための、大事な試金石となることでしょう。

なぜ人は民藝に癒されるのだろうか。作者の意図や気負いのないものの姿に同調するからだろうか。完全ではない自然としての人間と同じような不完全さの完全を民藝に見出すのだろうか。生きる方向を見失った時代に民藝の存在は救いとして欠かせない。

人間の幸せは未来に向かって突き進むことと誤解している人がほとんどであろうが、穏やかな日々の暮らしの繰り返しが豊かな未来となって定着するのであろう。朝鮮陶磁器のかけらを見ただけでその美しさが分かるというのは、いったい何の力だろうか。完成というもののない世界観になぜ未来を描きたがるのだろうか。

自然の一部としての人間であることを人間は忘れてる。人間がいるべき位置から民藝は外れない。私たちは再びこの心地をどのようにして取り戻せばいいのだろうか。

深澤直人

記念講演会 深澤直人に聞くー民藝の魅力とは
 講師・深澤直人(日本民藝館館長、プロダクトデザイナー)
 4月25日(金) 18時~19時半 料金 500円(入館料別・要電話予約)

・展覧会担当者による列品解説
 5月11日(日) 14時~[約30分]
 申込不要・参加無料(ただし入館料別)

□10:00-17:00(入館は16:30まで) □月曜休館(祝日の場合は開館し、翌日休館)
 □入館料 一般1,500円 大高生800円 □〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-33
 □TEL. 03-3467-4527 □京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分
 □西館公開日(旧柳宗悦邸)・会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜(開館時間10:00-16:30、入館は16:00まで)

<https://www.mingeikan.or.jp/>

日本民藝館



次回展示・所蔵作品一挙公開 棟方志功展 I 言葉のちから 6/14(土)~7/27(日)